



令和8年8月24日（R8-006）

県政記者クラブ 各位

地方独立行政法人岩手県工業技術センター

台湾から工芸を学ぶ研修生が来県 ～工業技術センターや漆器工房を視察～

地方独立行政法人岩手県工業技術センター（理事長 箱石知義／盛岡市）では、国立台湾工芸研究発展センター（センター長 梁晋誌／台湾）との友好協力関係構築に関する覚書(MOU)に基づき、台湾から漆工芸に関する視察研修を受け入れますのでお知らせします。

【 概要 】

- ◆ 期 間：令和8年9月1日(火)から9月5日(土)
- ◆ 研修先：工業技術センター、県内漆器工房 など
- ◆ 来訪者：台湾工芸研究発展センターが現地で募集した、台湾の漆工芸職人や工芸を学ぶ学生等の研修生5名。その他、同センター職員など同行者数名。
- ◆ 内 容：研修生は、工業技術センターや県内の漆関連事業者等を視察した上で、漆と異素材の組み合わせを活かした製品の企画提案を行う。
なお、帰国後には、企画提案した製品を研修生が実際に制作し、発表する計画となっている。



（写真）台湾工芸研究発展センター職員等による令和7年度の岩手県視察

- 本研修は、台湾における漆工芸の新たな可能性を探ることを目的として、台湾工芸研究発展センターが実施するものです。
- 工業技術センターへの来訪日は9/1及び9/4となっています。その他の視察先や行程の詳細については、担当までお問合せください。



【関連情報】

● 岩手県工業技術センターにおける漆工分野の技術支援

工業技術センターでは、産業デザイン部を中心に県内の漆関連事業者に対して、試験分析、人材育成、研究開発などを通じた総合的な技術支援を実施しています。

● 国立台湾工芸研究発展センター

工芸文化、工芸技術に関する研究や交流、人材育成等を行う台湾文化部の附属機関です。

<https://www.ntcri.gov.tw/home/zh-tw>

● これまでの両センターの取組

工業技術センターでは、令和6年9月に担当研究員が台湾に赴き、漆工芸に関する情報交換や現地指導を実施しました。令和7年8月には、工芸に関する知識・知見、研究開発、人材育成等に関する情報交流を推進するため、工業技術センターと台湾工芸研究発展センターとで友好協力関係構築に関する覚書を取り交わしています。また、同年10月には、台湾工芸研究発展センター職員が岩手県を訪れ、漆工芸をはじめとする工芸産業に関する視察を実施しました。

◆ 地方独立行政法人岩手県工業技術センター

岩手県工業技術センターは、技術相談への対応、依頼試験や機器貸出、共同研究などを通じて、県内企業等の研究開発や技術力向上を支援する公設試験研究機関です。1873（明治6）年に創立し、2023年には150周年を迎えました。

ものづくりDX推進部、機能材料技術部、素形材プロセス技術部、産業デザイン部、醸造技術部、食品技術部の各分野で専門性を生かした幅広い技術支援に取り組んでいます。